

スパコン「富岳」操り全国3位



松本市の松本秀峰中等教育学校5年生(高校2年)のチームが、オンラインで開かれた高校生らのプログラミング大会「第28回スーパーコンピュータコンテスト」で3位に入賞した。スーパーコンピュータ「富岳」を利用して作るプログラムの完成度を競う大会で、初出場の3人は手応えを感じつつ「来年もこのチームで1位を目指す」と意気込んでいる。

松本秀峰5年生 プログラミング大会で

「3人で実力高め次回に臨みたい」

チームのメンバーは西塚遥都さん(16)、服部惇さん(17)、的場岳斗さん(17)。6月の予選で本選出場の20チームに入った。本選は8月22～26日に開かれ、学校の教室から自分たちのパソコンで参加。理化学研究所計算科学研究センター(神戸市)の富岳にアクセスし、複数ある文字列が互いに異なることを示すためのプログラムの正確さや速さを競った。想像以上の計算速度に驚きながら、計算手法や改良点をホワイトボードで共有し、プログラムを組み上げた。

結果は1位が灘高校(同)、2位は渋谷教育学園幕張高校(千葉市)、3位はほかに東京工業大付属科学技術高校(東京都)。入賞が決まり、3人は「よっしゃ」と声を上げて喜び合ったという。服部さんは「もっと改善できたのではないかと悔しさも残る。3人で実力を高め、次回に臨みたい」と話している。

高校生のプログラミング大会で3位に入った(左から)的場さん、服部さん、西塚さん

スパコン操作 全国3位

八月にオンラインで開催された高校生によるプログラミングの全国大会「第二十八回スーパーコンピューティングコンテスト」で、松本市の松本秀峰中等教育学校の五年生、的場岳斗さん（も）と西塚遥都さん（む）、服部惇さん（む）のチームが三位に入賞した。三人は結果を喜びながらも「来年も出場してさらに上を目指す」と意気込んでいる。

（右田誠弥）

松本秀峰中等教育学校チーム

「来年はさらに上を」

大会は六月に予選があり、チームは本選に進む二十組に残った。八月二十二・二十六日にあった本選では、スーパーコンピュータ「富岳」を使いながら、プログラムの完成度を競った。問題は、複数の文字列がそれぞれ異なることを判別するために必要な、最小の条件を探すプログラムの構築。三人にとっては初めて見る形式の問題だったという。

初めて扱う富岳の操作にも苦労したが、その計算速度には驚いた。西塚さんは「富岳を扱えたのが、自分にとって大きな収穫だった」と振り返る。

初日は問題を読み解き、二日目以降は、的場さんが書いたプログラムを西塚さんと服部さんが検討して修正するなど、役割を分担して作業を進めた。結果に、的場さんは「強豪校の中で三位に入れたのはうれしい」と喜び、服部さんは「メダルが届くまで入賞した実感が湧かなかった」と話した。

大会を振り返り、西塚さんは「あと少しの考察や改善でもっと上に行けたかもしれない」と悔しさもにじませる。来年も三人で出場すると飛躍を誓った。

するつもりで、的場さんは「インターネットサイトに掲載されている競技プログラミングの問題で腕を磨く」と飛躍を誓った。



大会で3位入賞した、左から西塚さん、服部さん、的場さん。松本市の松本秀峰中等教育学校で

(第3種郵便物認可)

市民タ

表彰状とメダルを手に喜ぶ西塚君、服部君、的場君(左から)



西塚君・服部君・的場君

秀峰が電脳甲子園3位

上位入賞 県内初の快挙

松本市の松本秀峰中等教育学校5年生の的場岳斗君(17)、西塚遥都君(16)、服部惇君(17)がこのほど、「第28回スーパーコンピュータエーシングコンテスト」夏の電脳甲子園の本選で全国3位の成績を収めた。理化学研究所のスーパーコンピュータ「富岳」を使うプログラミングの大会で、初出場ながら強豪校を相手に善戦した。

(田中千絵)

大会は予選を突破した全国の高校生20チームが出場。昨年の優勝校の灘が1位となり、松本秀峰は2位の渋谷教育学園幕張と僅差だった。上位入賞は県内初の快挙となった。科学技術の分野から1問が出題された。期限の4日間で答えを導くプログラムを考え、実際に富岳で走らせた後、より正解に近づけるために修正を繰り返して、精度を高めた。

3人は得意分野を生かし、主に西塚君が問題考察、服部君が原案、的場君がプログラムを担当。普段から互いを尊敬し、切磋琢磨している信頼関係も好成績の要因となった。西塚君は「全力を尽くして満足のいく結果となった」、服部君は「2人のおかげ。来年も挑戦するため実力を上げたい」、的場君は「経験を生かして来年は1位を目指したい」と力を込めていた。

服部君と的場君は、11月に福島県で開かれるパソコン甲子園プログラミング部門(1チーム2人)の本選にも2年連続で出場を決めており、活躍が期待される。